

第68回北海道高等学校PTA連合会大会十勝大会 参加報告

北海道釧路明輝高等学校PTA会長 須 藤 伸 一

平成30年6月16日、17日の2日間に渡り、帯広市で開催された第68回北海道高等学校PTA連合会十勝大会に、清水副会長、菅原副会長並びに藤井校長と参加してまいりました。大会主題「身近な人と結ぶ信頼の絆」のもと、全道から1,150人の関係者が一堂に会し、講演や分科会を通じてPTA活動に対する理解を一層深めることができました。講演並びに分科会の概要を取りまとめましたので、参考にしていただければ幸いです。

【全体会】

1日目 講演

『「おカネの世界」から「いのちの世界」・「こころの世界」へ』

講師 福島県飯舘村 村長 菅 野 典 雄 氏



2011年3月11日、東日本大地震で未曾有の災害に見舞われた飯舘村の菅野典雄村長の講演であり、私自身襟を正して拝聴しました。ご自身が大惨事に遭われ、かつ、今現在も真っ只中で奮闘されている菅野村長。開口一番「人生、プラスマイナス0ではないかと思う」から「とても耐えられないような難もあれば、小さな小さな難もあり、その時その時でどのように選択していくかによって、人生は大きく変わります」と。また昨今の児童虐待に対し「本当に悔しくて身震いする」と話され、最後は「未来に向かって、また、一粒ひとつぶ種

を蒔いていきます」と結ばれました。時にユーモアを交えて話される姿に、人としての強さを感じ、未来への責任感を学ばせていただきました。主な講話の内容は次のとおりです。

- 人生は片道切符。今日はかけがえのない1日。決して戻ることはできない。
- 自らの人生のデザイナーは自分。人生に自動ドアなし（扉は自分であける）、人生にカーナビなし（行き先は自分で探す）
- 人生には分かれ道がある。人生は日々「どちらにしようかな」を選ぶ連続。この積み重ねが人生の分かれ道を決める。
- バランス感覚が大切。物事には必ずプラスとマイナスがあり、どちらに重きをおくかが大切
- 柔軟性が大切。物事は前例に囚われず、柔軟に考えることが大切。企業では商品のネーミングやキャッチコピー1つで売り上げが大きく変化。固定観念を捨て、時代の流れを読むことが大切
- 成長することも大切だが、成熟することに軸足をおくことが必要。お金の時代から、命、心の時代へと変わっていかねばならない。
- あがり目（常に前向きで）、さがり目（他者の立場に立って）、ぐるっとまわって猫の目（時代の流れを読んで）を大切にしたい。
- 生まれるとは、人に世話になること。生きていくとは、世話になった借りを返すこと
- 子どもに対して、大人としてのしっかりとした姿を見せることが大切
- 人は本を読まねばサル。「そのうちに」といってはいはだめで、結局は何もしないで終わってしまう。などなど

とかく自分中心になりがちな世の中で、自分を客観的に見つめ、周囲の人への配慮を忘れずに生きていくことの大切さを、菅野氏の講演から学ぶことができました。

2日目は39の分科会が開催されました。それぞれのテーマに沿って、先進的な取組を学んだり、活動の課題を共有するなどして有意義な分科会となりました。

【分科会】

116分科会「高校における学校行事を支えるPTA活動について」

副会長 清水真理子

私はいつも「子どもたちのため、子どもたちの笑顔がみたい」との思いで、PTA活動に参加しています。

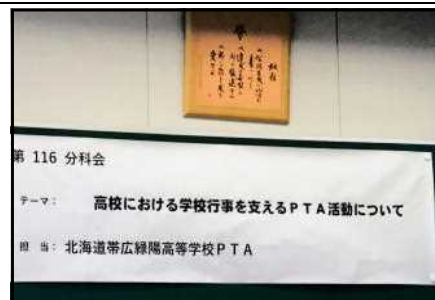
1年に1度の明高祭でも、何をすれば子どもたちが喜んでくれるのか、自分の子どもを通してほかの子どもたちの考えも聞いたりしています。子どもたちの要望に応えられているのか、もっとできることはないのかと日々考えています。

そうした中、今回分科会に参加して、「仕事の都合などで、役員のなり手を探すのに苦労されていること」「ご夫婦で会長、副会長をされていること」「学校祭で6,000本の焼き鳥を80人もの保護者の協力で焼ききったこと」など、多くの学校の取り組みや苦労を知ることができました。

また、参加者の皆さんが、学校を愛し、熱い思いを持って子どもたちのために全力を注いでいることを肌で感じることができました。

これを機会に明輝高校のことをもっと知り、子どもたちのために頑張っていきたいと決意を新たにすることができました。今回の大会に参加し、自分自身が成長できたことを嬉しく思っています。皆さんもお忙しいとは思いますが、時間を見つけて是非参加してみてください。

「人のために生きる、人のために役に立つ。」全国高P連の牧田会長がお話しされていた利他の心を持って、今後のPTA活動に取り組んでいきたいと思います。



117分科会「保護者と学校の連絡体制について」

副会長 菅原宏樹



皆さんは学校からの「便り」を全てご覧になっていますか？ 何度もやかましく言って、やっとかばんの中からぐしゃぐしゃの「紙」が「終わった頃」に出てくるような経験はないでしょうか？

連絡手段として、メール、紙、電話など、複数の方法がある旨の報告がありました。特にメールが議題にあがりましたが、100%とはなっていない為、補助的にならざるをえないようです。ある私立高校では「生徒に便りを渡しました」と保護者にメール連絡しているとのことで、参加者から「なるほど！」と感心を得ていました。

また、大切な案件は、成績通知表とともに郵送したり、参加、不参加の返送が必要な重要案件は黄色、オレンジ色の紙に印刷して送ったりしている学校もありました。

一方で、生徒が勝手に「不参加」に○印をつけて提出し、保護者は最後まで知らないなどといった考えさせられる報告もありました。ある校長からは、「メール発信はしたいが、実施する職員のスキルに差があり難しい問題である。」といった話もあり、学校のご苦労も伺えました。本会に長年参加し、今回で9回目の参加となる保護者からは、「生徒のために行事提案をしても、学校がさまざまな事情により、なかなか決断できず、企画として実行できないこともある。」といった話もあり、保護者と学校相互の信頼関係をより一層構築していくことが大切であるとのまとめになりました。

道南の高校では、クマの出没時に「緊急連絡」を発信しているなど笑えない話もありました。

来年は苫小牧市で開催されるようですので、みなさんも参加してみてくださいはいかがでしょうか。

114分科会「子どもたちのためにPTAとしてできることについて」

会長 須藤伸一



本分科会では、35校の代表が集い、テーマに沿って意見交換がなされました。

各学校の学校祭の活動状況を中心としてお話しがありました。他校においては、学校祭には直接関与していないPTAもありましたが、そのかわりにPTAの中で進路の担当を設け、先生方の長時間労働の軽減に向けたサポートに努めたり、近隣国との親同士を含めた交流会を開催したりするなどの、多岐にわたり、さまざまな工夫をこらした活動が紹介されました。

また、生徒の50Km競歩遠足に750名の保護者が三交代で警備にあたる取り組み、学校全体で行う12時間耐久勉強会に差し入れを行うなどして激励する取り組みなども紹介されました。

さらに、小規模校のメリットを生かして地域に密着した活動を行っている高校では、コミュニティの意味合いを深めたPTA活動の実践として、地元の小、中学校との連携強化、地域による資格検定料等の全額負担や学校給食の提供などの話もありました。

分科会のまとめは、「子どもたちのために、まず親が勉強していかななくてはいけない！」となり、私自身が視野を広げて、本当に子どもたちのためになるPTA活動を目指していきたいと決意を新たにしました。

112分科会「学校・地域・PTAの協働による活動の在り方について」

校長 藤井一志

参加者30名の自己紹介に続き、前半は、各学校の取組状況や課題等を報告し合いながら、三者がどのように協働していくことが望ましいのかについて、ディスカッションを深めました。連携・協働した取組としては、「地域の観光ボランティアガイドの実施」「特産物のレシピ作成」「農家の生産した野菜を学校祭で販売」「商工会とタイアップした学校祭の実施」など、それぞれの地域特性を生かしたさまざまな取組が報告されました。また、取組を進めていく上での課題としては、「都市部においては、取組を実施する上で、地域にどのようにアプローチしていけばよいのか」「多くの人と協働する上で、学校のセキュリティをどのように守っていくのか」などがあげられ、その対応等について情報を交換しました。



さらに後半では、スマートフォンやSNSの活用について、各学校や家庭での対応について情報交換を行いました。情報化社会の中で、子どもたちが正しいモラルを身に付けることが大切であり、そのため学校、家庭がそれぞれの役割を自覚し、協力して対応していくことが必要であるとの意見が出されました。

各学校が行う取組のねらいや目標を、地域や保護者の方々に丁寧に説明し、理解していただきながら、連携から一歩踏み込んで協働していくことが大切であると感じました。

次年度は、苫小牧市で開催される予定です。多くの皆さんの参加をお待ちしております。